

1278
4

稻田

朝夷巡嶼記全傳卷之四

東都曲亭主人編輯

林坂乃牛奔車

榎の虛北峴嶧佛

初輯第七

江三二廣光へ幼君白鷹丸を負すやせ妻浅良井と扶被そ。口、舌管ふ走り。日づる種く足利る。學校又到着す。彼の学頭均長老。主家の竊々告て。孺君のうへ憑つて。高長老うち驚き。白鷹バヨス。外姪あむ。憑れどもかると。些の資と。まづざらんや。ひやとて。冷。強もなくうけ引く。かひく。ぞ含藏ぬ。あくと。も廣光ホヘ。主君のう見が。あうか。尻も。ちゆ。そこの空を。瞻望。じよ。た。日。み。五度。小巷。殘街。観。範頼。終。若。寺。自殺。た。廣通。重。

能ホ。さゞく七人元より為体。又濱の宿の館へ討ひの軍兵と向て向れ。橋太左衛門治部丞ホ。みる悉討死し。憐太の方も猛火より包き灰燼となつて死ふ。今うるほど語りつぞ。ひりてはく罵り騒げ。均長老ハ傳毎日公うすと限りうけきど。外あさすうぬありもつて。竊ニ廣光浅良井。被風声と告ち。よまきく白鷹丸と。かく隠す入と遭せ。廣光ホも豫て。ちりびざるやあくねとも。又今さうのゆふ是く只うと。哀しきゆゑ。うたの。儒君の。うれ。あた。あがた。よ。きそ。臨む心地せり。かう患ひよ付く。年のかうまかなゆきど。幸にして異る。ことなく鄙俗少ひ。七十五。世の風声もよどぎなく。果もゆきえど。なまく。け。その明の春。高長老ハ年始に拜賀と。勝倉へ。正月下旬。還。あと。かく廣光ホを竊み。拓た。款ひ。白鷹丸。せら。外口と。たを。紙。

此度定ふ。かく。その故に箇様こと。範が朝臣終。宿。一通文書送。幡太の方の。階級。共。勝倉へ進とせ。刀野親子が罪被りて。照時。刀のみ伏。子太郎時。夏。足利流。さと。縛の。越。委細。あさり。こよ。よと。まく。勝倉殿。おひく。ませ。かひけん。有。日。景盛。盛長の。嫡男。勝長の。元。り。功。え。所。領。か。そ。範頼が妻と子の命乞と。あ。よ。と。も。予。へ。幡太の前を赦。く。白鷹丸をゆき。りた。先づ。ふ。件。の。一。婦。人。へ。墓。う。と。枉。元。と。京行との詮。う。な。似。く。り。情。や。が。範頼が逆謀。か。定。う。う。び。さ。る。武。被。擧。を。さ。る。兵。か。乃。る。よ。焼。れ。一。秋。い。と。も。不。侵。の。工。ふ。う。い。よ。や。白。鷹。死。う。ぐ。と。も。成。長。の。後。逆。意。う。く。追。捕。の。沙汰。よ。ひ。べ。う。と。退。出。る。が。ど。の。旨。と。又。盛。長。み。け。よ。じ。と。窮。示。れ。き。ひ。と。ぞ。と。別。入。み。ゆ。あ。と。と。廻。被。地。み。廻。苗。の。お。兄。景。盛。が。密。語。ね。の。比。の。入。き。う。子。兄。丈。と。と。由。出。へ。る。う。と。と。欲。し。う。限。り。う。け。き。ど。只。外。の。ゆ。

うへて白鳩丸をこび郷又舎居アヒテ告げ。今さうば去年比叡ノ野太郎がこの足利小流浪より舟合せ。又蒲殿ノ冤枉。係多く滅亡志あへども死後ひ及び。逸者のある。あらうありかとおれん。和敵の舎兄ノ智謀。生す。それが件の遠書も廣通が草せしよ。さうめありも定ふいへと是も又景盛が言まの叙。又ぬるまぬ誠。又番人廣通へ身のうた後。そぞ君と仕事。その智。その忌。傳希。惜かる主役八人。名城のミ伊豆の山寺の誌の石み送す。

トよ。といひて涙をうちかねば。廣光夫婦ハ歎きと又哀しく。堪ひ。脆衣袖のあふ。ぐりく。劫残。うづべ。かくても件の主役ハ世威あび。西三年。うつ。謙倉の沙汰をやく。疑。たる。もろ々。筠長老。筠長老。夫婦も。やく。心ちやく。此役。よ。従命。謙倉を走る日。小孺君。と。廣道。やう。せつ。金子をり。八町四反の田地を購。一構の家作。と。

白鳩丸をね。あひ。せ。廣光。ホ。外。両三人の奴婢。就養。耕作の用。富みある。貧しくもあひ。春秋。送。往。白鳩丸。学校。ひ。習学。向。タ。え。あひ。又。广。さう。廣光。敵。兵書。論。劍。を。弓馬陣。は。漏。走。と。走。と。執。を。励。と。あ。文。才。長。て。發明。せ。ざ。る。財。と。立。と。が。の。も。と。隣。代。る。と。白。鳩。丸。十六。の。春。を。わ。や。迎。へ。と。广。廣。光。ひ。禪。と。年。浪。の。と。せ。と。と。隣。代。る。と。白。鳩。丸。十六。の。春。を。わ。や。迎。へ。と。广。廣。光。ひ。あ。と。謙。倉。の。沙。汰。や。え。え。入。る。と。怪。ま。と。され。が。美。邦。主。役。へ。き。と。許。ま。れ。と。憚。り。の。因。の。戸。用。と。地。と。云。徧。か。長。老。の。高。恩。と。と。と。父。の。エ。と。主。の。エ。と。いつ。ま。で。仕。ん。と。ひ。あ。ひ。と。广。長。老。の。この。狀。病。を。病。と。づ。ひ。く。い。と。も。

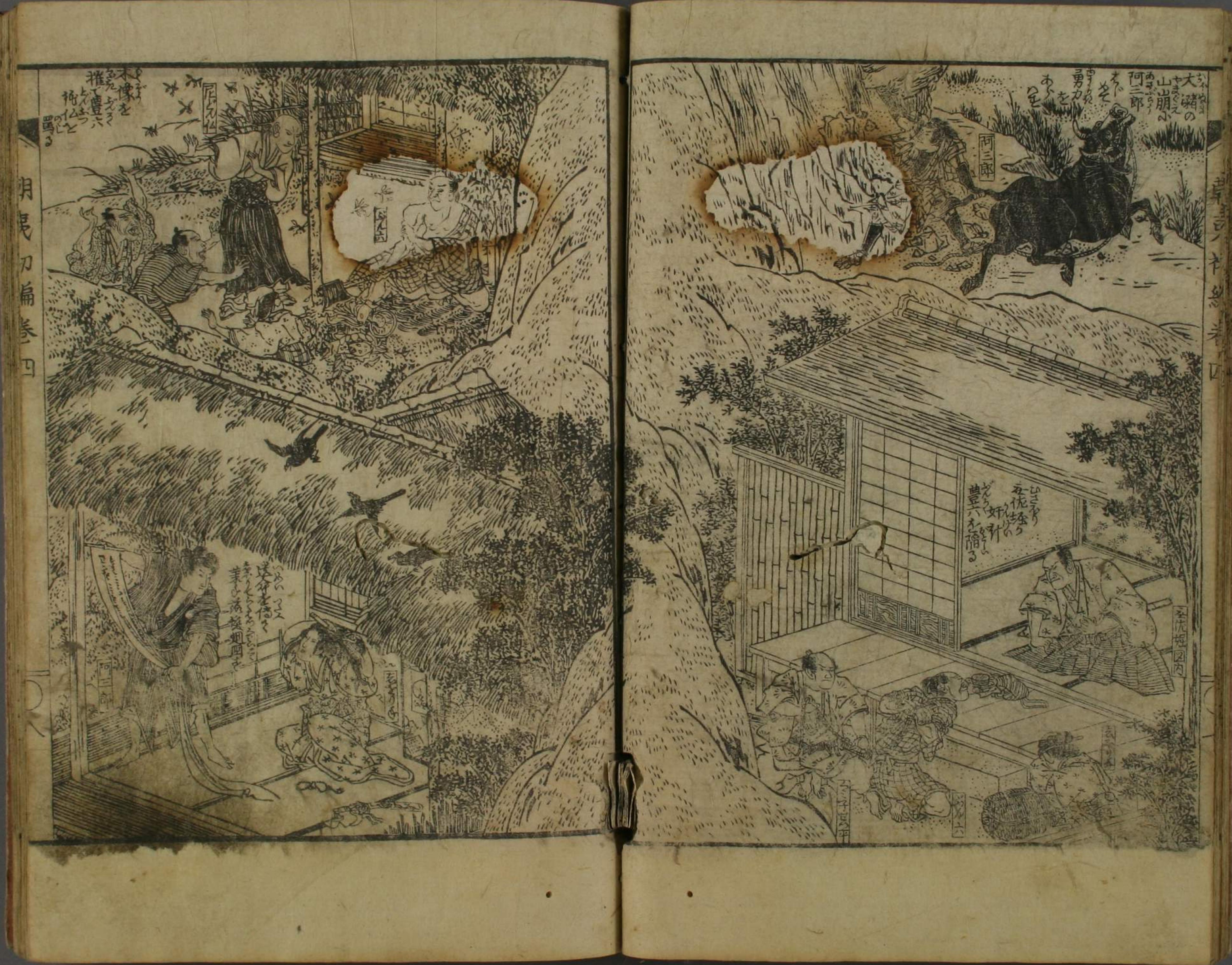
危く死え。が矣知と廣光の枕方足方ゆつを添く看病等す。而なうざまども、
定業うまく医療も暨び。病と五十餘日。竟ひむすくかのうみけよ。
それへとあたふまう。ちやや。とつた。案下某生再現阿三郎の母親の病著紙とくらんあふ満禄寺の師の坊を
辞て去る。大賀清江は立入り。茶餌何人見となく公残用ひ。夜とそをまくへいも
宿す。等兩りぬ孝養神も憐みらひ。醫師へ匙とあらわし。死病を
やうや回陽。次の年の弥生の比ハ大きうさうじをとるうのう。二とせゆるお
價小家財ハとべて沽却。些の田地と賣ふ邊へく。こぶりたるがくのまよ。
と啣がまくうち歎く。又豊六が貪の病へえよ勧薦もあく。トテ身暮れ
碎くとも親のあう戒休ん。ところが朝へ未明す。田を鋤畠とかへせども三ヶ二ヶ
人よ領けて僕所残る頃。とくばこれね一人稼めむ。うもあうざと力と入る
傭。馬を追ひ牛を牽秣と刈薪を携り。雨又湯と日ふくろむ。艱苦も比へ
を。債をうそとあは。苦へ。うそとやみ世とく時とく木曾殿の薦治三浦堂の
達の駒友と古縁。て面影まく。裏をう。と互飛する二親の骨董ひうね。借残と
物もあり。かうが満禄の山寺の行童ろほ日ふ絶え似ぞ。榜の刺衣と襷の帶
を。委ね水と流浪。人の往方のあずく。明る地す。云々と慰ひ。こぶらふ窮
鬼とそ讐敵う。又年へよれた。ありやせんと義城追ふ。果敢なた
つれひあてふ。年月を送り。かくも阿三郎の十七歳。まづのう。筋
骨太く定り。身長ハ五尺九寸。骨逞く。膏づれ。掌や残被へ盆を掩ひ。足を
あぐと。溝を踰ぐ。その形客力士らをそ。肩と比らうのをうなじ。どくあるを温
覺。順々。怒り残るを。人を識ら。平生ゆきまことに。意地を抱く

あきびら如く。りゆあわまく辨せるとかが至る。隈もうく。辨古ふく。水ふ仙
あり。あきども博士態く。おりてとれぬが。こひれあるのと稀なり。又みづ
くも試され。ちくらあはとこう見ざほ。有一日薪を積よきける。車を牛す
牽し。鄰村へとそゆ途よ一條の新阪あり。今まちうれ比の山崩よ。この路と
開た。山崩坂と喚做し。左右又木立隙あらえど。林坂とも二まく戻ひ。阿三
郎の牛を逐ひつ車と坐まく件の阪登り果んと。牛載牽駆り。身の口只忙せたつ。走り
東尾墮こと滾落まが追ひとごんと。牛載牽駆り。身の口只忙せたつ。走り
下まく彼薪以捨ひ取らんと。まう程よ何と。牛摩解く。車へ阪と
降ふ。轍ひ跡少しだけ。坂へ陥し。車へ車へス登り。あは内三郎も。こひれ避るふ
暇き。おりて右の坂さへ神く。車を楚と突留め。ちくら牛乗して曳くと。推
て駆く。推のねへ。牛摩戒警がく。舊のどく。牛のみ車が牽け。このと見

トのうす。いとび。鞍力。牛やもすく肩す。狹狭りく。つぐと。あく。日互満福寺を
ひむる日。健田夫人誠らく。こぶちくらう。ある工糸。穢く。めりうきー。からべー。られ
ながう。つやく。口へけざり。左ひつけども。右小就て。も。きらう。な。彼翁え別に
ようもや。三年生息。いと。かく。ト。じ。じ。安不。翁の向。おあまじと。よ。む。う
じ。ち。この日。すくじく。かうけ。され。が。浅江の豊六。を。な。ぐ。親。歎う。妻。の
嘗もえさえく。何せ。も。ぐ。親。子。三。人。それ。も。く。妻。の。葉。み。ハ。三。年。あ。ま。う。ま。の。病
著。かく。在。う。ひ。も。う。た。の。う。庄。司。曜。の。一。三。と。う。莊。客。の。女。房。ハ。葉。み。ハ。後。方
め。あ。り。た。彼。女。房。ハ。考。す。く。よ。と。ど。も。一。三。ひ。う。心。疎。く。も。あ。く。ぞ。伏。れ。う。る。あ
な。ま。う。が。葉。み。ハ。葉。價。よ。残。を。貸。米。を。貸。す。と。や。年。暮。小。暮。す。と。も。前
且。小。債。る。と。は。豊。六。も。葉。み。も。渠。う。面。を。ア。ク。ヒ。シ。カ。レ。その。る。残。ヨ。ヒ。ト。ら。よ
ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ヒ。一。三。へ。貸。あ。く。ど。あ。み。侘。ま。る。然。ま。ひ。金。錢。み。ハ。緒。代。乃

主あり。あまりひどく免人より貸す。その困窮を救はる所謂財の力ちうき也。
守綱の嘗日といひま。たゞとく吾脩富るふあらねど和主小比色がさうのやせん。
そのかえよ妻もなく。又遺産ばれ子もあらず。六十の隣へ足踏みて倚みす。
捨く物惜し。あらとたゞ返りゆく。ひよだれぬんとく。安否狀向ふべ要
來。とよみのりく回答する。これらふよりて豊六へ。あまうて乃のみ毎。
庄司縣の三のそこ一郷の君子あり。汝ホも彼人の恩義不忘こそ。といひ
つ涙下ぐ。お親の御歿歿である。阿三郎の身入へ。いと恩惠小報すん。
あらねど患苦を救へ入る。とまくあまび高利をうけく。債る工哥どきに。
まくとくとく。庄司縣の三のそこ一郷の君子あり。えびくわを。おき
つ涙下ぐ。お親の御歿歿である。阿三郎の身入へ。いと恩惠小報すん。
とよみがる日かなくよしが。ごく旅費力あるとぞ。元へ後よあひゆかう。恩人一三
人の田地ハ水口コ大石あまる。用水の使ひう。おとども彼石とよと肩上
輪々荷入へ。とよみがる。竊ニ件の石を除ぐ。此の資材かたゆまぬべと云
ふ。おとども。運動一。かくとて半ハ水土み埋もる。石を拔取引起る。旧のエ
キの田地ハ水口コ大石あまる。用水の使ひう。おとども彼石とよと肩上
件の鄉音小驚にえ。あらぬを運へと起出。この分野は呆ま栗山。只神の所
ざる。べとく一二。幸を祝せ。縛遠邊は隠とな。不思議の事あひ。莊客们
さよこど。阿三郎の如くぬがりも。却説大瀬の北盡丸。鉢佛とらふ
女僧あけり。そが菴号ハ千日菴。本尊ハ釋迦牟尼如来。部華嚴法の本像也。
仏ハ定うきぬ。全身黒漆ゆ。玉眼生るがゆ。その佛壇の背のまぶ年う
さ高楓樹ある。幹のまぶ十圍。枝下九尺。根が粗大。朽て
虛少ぬ。とく後もへ壁を穿て。この樹へ廟をさす掛く。件の虚と廟子と

を。彼木仏を安置せ。一。里人。ハ。その。數奇。ふ。愛く。複の。虚の。峴嶮。仏と。喚。做
隨の。名。ある。く。さり。ぬ。か。て。この。比。峴嶮。仏。グ。正く。經。跋。繞。う。の。と。も。老弱。群。集。途。さり
あ。へ。ぞ。現。寄。成。好。じ。へ。世。間。の。き。ぐ。と。の。入。の。避。ろ。む。庄。司。殿。の。一。三。が。楓。の。口。た。る。石
の。ゆ。と。の。流。經。佛。の。み。が。の。ミ。味。」
ひ。ふ。や。千。日。菴。の。仏。が。俄。頃。又。を。ゆ。そ。の。と。そ。る。く。れ。あ。り。ふ。の。よ。かる。類。を
さ。む。る。ゆ。使。て。一。身。俗。ハ。年。不。幸。庵。う。る。淺。草。寺。の。現。世。音。を。戴。う。く。彌。ま。せ。れ。ハ。
病。易。ふ。うち。み。セ。一。日。ト。ヤ。大。慈。大。悲。よ。願。去。一。定。業。う。づ。惜。む。べ。乞。命。ゆ。待。う。
後。ど。ご。の。故。朝。夕。の。煙。り。の。細。い。が。所。天。や。子。が。い。く。う。勤。勞。を。す。け。り。二。元。と。す。す。
ゆ。ゆ。ま。胸。苦。一。さ。病。痢。も。り。や。ま。く。な。だ。し。と。の。か。て。も。す。ぎ。と。こ。う。が。為
き。ゆ。せ。ば。ち。れ。往。よ。大。往。生。を。遠。さ。せ。る。入。ス。助。る。べ。た。の。る。と。一。日。ゆ。と。や。く
ち。こ。と。よ。せ。そ。所。天。や。子。の。苦。身。休。ら。え。と。金。と。う。と。年。代。付。て。稍。本。復。小。寂。れ。つ。
と。心。も。貪。財。故。と。ぞ。す。い。と。ど。罪。あ。し。有。さ。せ。り。現。世。大。慈。大。悲。と。金。ど。り。六。阿
三。郎。仰。あ。一。モ。よ。ふ。富。む。入。ハ。苟。且。の。ゆ。の。詰。ゆ。馬。轎。と。お。の。が。ゆ。す。を。廢。旅。交。き。ま。ね。
さ。ざ。う。功。徳。厚。ふ。べ。あ。う。誠。よ。か。な。ひ。う。が。ゆ。き。ぬ。あ。よ。第。く。ね。と。そ。な。で。ふ
み。ゆ。ゆ。へ。た。か。う。と。ゆ。さ。ま。ざ。ゆ。ふ。き。ま。き。ぐ。某。母。の。代。善。業。う。け。負。う。ゆ。彼。些。
賃。宿。の。受。と。う。が。る。と。ゆ。が。政。費。へ。そ。ま。ふ。、ゆ。の。足。互。り。水。引。る。と。ハ。三。日。陸。立
い。ゆ。う。ハ。六。七。日。ゆ。く。え。り。ま。ん。と。の。と。易。一。參。く。み。あ。じ。て。翌。未。明。小。首。途。づ。つ。ゆ。わ
ら。ん。と。恩。と。と。く。う。も。る。笑。み。ち。ん。お。系。ハ。い。タ。フ。ト。グ。吾。脩。が。み。づ。く。う。承。る。か。ゆ。は
さ。か。と。と。水。引。れ。好。一。と。ど。よ。や。日。ま。ざ。ハ。三。四。日。道。も。序。よ。と。も。陸。ト。と。よ。け。き。初
旅。属。よ。ス。ち。り。そ。が。く。あ。す。ま。ら。が。す。ま。き。ひ。そ。と。諭。き。我。義。母。り。う。と。も。よ。



又豊六あつしと告のぞままの眼まなこをひねひねひひとさへ蓋ふた一蓋いつたを同とも行ゆきて起おこむ
行ゆきの准じんめめとと。その結むす朝あさ音おと苑いんなる浅草寺あさくさを投なげく首途くびとせり。さは詔おほせ小銅佛こどうぶつか。
複ふくれ虛うつ乃の峴嶮けんぜんムむすままと經きょう本もと続つづきとと。音おと詣まいの老弱男女おじやくめんじょ日ひよよくく縣あがく。
田たとともものの畔はととありあり口くちハ提さげ經きょう戒かいレ先さきゆと千日せんじ菴いわへ詣まいる。まよまよその三さん年ねん月つきと
なあなあ豊六あつしが麥畠むぎばたけとととと踏ふみ荒あらせせ鳥とり禁きんれどどききくくのほほ頃ごろ四よ月つばさ乃の中なか浣あらわく。
秋あきみ鄴べとと青霞せい霞の登のぼりを十分じゅうぶんとと。一穗ひとねも惜惜ととややう。今茲いま糧りよう禁きんれ
腹はらががそそどどもも堪堪たたののひひ。千日せんじ菴いわへ赴たつく。通つう鑑かん由ゆを告こ。とと制せいりり。されとと管かん
うち熟じゅくく貧ひん銅佛とうぶつ尼みの仰あおああ班はんする。齒はを見みく。呵かこととうち笑わらひ。ある衆しゆうを
入りいりである。このせが儀ぎの宿すくみ瘞よ一い痕こん二に痕こん。麥むぎを惜惜とと。帝佛だいぶつへ詣まいく人ひと
うをうを良よか禁きんややののふふぞぞ。和わ主しゆががめめを惡あくへへ地獄じごくの鬼きへ冷さたたくくえん。
やくやく必ひ前まへ生うへ。提婆提婆とと守まつてて。佛ぶつ歎かんへ度と。疾め逃とう。とと寄よ。

やくやく再なくくととのあへざざとと豊六あつしへへ。腹はらののこころろののままをを。聊りょうももは
ああしがしが一一言ごんをを諭ゆ。とと是いととももののびびく。又また音おと詣まいの群集ぐんしゆが紛まぎれて。擾まぎの虚うつと
窺くわふ。とと兩りょう三さん日ひ小こ及およびび。既既よよつてて。今今かかとと忍しのべべ。その次つ乃の
赴たつけけ。彼かれの老弱男女おじやくめんじょ陥おちる。とと宿すく所所。牛うし。山さんを下おす。併あわせ菴いわ。
かからら。彼かれ推す此こ。推す此こ。てて。外ほか山さん。榮さか城じゆ。持もる。雪ゆき吹ふき。ま。霞霞ののどど。齊さい
念ねんる仏名ぶつめい。菜種さいしゅ。聚あつく蛇へ。似おなす。豊六あつし。外ほか面めん。左さ立た右う遠とお。裡うち乃の
すすを窺くわ。庵いわ主ぬしの尼純みじゅん。佛ぶつ。對たい。高胡床たかご。香こう。煙えん。經きょう。通つ。投なげ。賽さい。
絳きんのの爲ため。方かた。みみ。祭まつ。配はい。目め。口くち。暇ひま。時とき分ふ。トと。豊六あつし。勢せい。ひ。猛もう。引ひ。
提さげ。斧のこ。柄つか。立た。立た。人ひと。搔か。立た。かか。立た。けけ。虛うつののぼとり。進すす。出で。長なが柄つか。斧のこ。立た。四よ下げ。信しん。疾め。視ひと。尼み。ささ。又また音おと詣まいの老弱男女おじやくめんじょ劇げき。騒さわ。

あまよく。とりの経小豊六声をうたひ。人々五口侍候あやむ教現正法めり不思
議は綏教也。阿彌陀でも木をうそ刻うる佛が続經名ふとあらんや。まも
えの佛めあよ。あらうなれ。麥細を暗荒さきく糧を失ひとて禁めてもうと頻
り。主の菴主み歎くとりへだ。そのうへ聽きてく仏敵外道と罵られ損く恥おどかめ
す。すせて。浅江の豊六うるよく名告じ。ゆきうへあふえ。木佛が絶縁し。奥の院と
推測れて。光明の醉戒醒んぞと。食する冬がとうふ。せば延ム慌忙をと。復して更
悪人物体うと殊教をりて拂退けんと。考しげ。物こいや。と。豊六の怒又乘じて突倒し。
因りと。虚ふ跳て。今。斧やり揚て。下ど打され。く仏の脊より。大たうつて。鞠くまと
あた。蜂房^{アシナガハシ}破ると。あがて。数百の蜂の子群みて。既のうへ散か。とがへことこれよ
か。既に。春ひくゆく。ゆく。寝びづ逃出。我豊六。息ぬ。呼びとら。蓬を人のと爲す。
仏と。あへ日高。て。擲り財を惜とせ。そ。の本體を峰と。尼と。がり。かそ。既
あつて。迷孰^{ミスル}が。あ。た。複の虚ふ早晚と似。我蜂が房を造り。そ。の子方をくろ。隨ふ
名け。賣僧とい。まこと。好。木の虚を厨子や。くろの豫て。下り。そ。の底意あり。そ
うえん。あ。と。仏の脊のうへ密みど金あ。を。く。竊。又。蜂戒説引。軽て。まこと亦
あ。べ。と。支正法。小。不思議也。あ。と。然不思議あり。そ。く。奇ふ聚合の迷ひ
か。ても。迷ひ。う。と。だ。と。声。高。か。解。喻。せ。が。裏。皆。文。呆。果。て。あ。が。と。奇。一。小。勝。戒
鼓。現。大。諦。め。さ。る。の。あ。と。笑。浅江の豊六。一。器量。ある。そ。の。と。そ。と。入。へ。と。が。眼。前
との。勧。元。ふ。魂。消。と。あ。と。そ。と。の。月。一。旬。あ。ま。と。細。ゆ。く。さ。び。植。け。せ。せ。と。下。り。あ
蜂。ふ。賽。経。へ。村。の。供。養。み。う。と。せ。と。悔。」
あ。と。緋。子。朴。と。元。化。聲。み。う。と。置。富。と。散。動。け。と。ま。と。一。の。菴。主。泡。仏。ハ。五。十。餘。歲。の。老
者。ま。と。豊。六。み。突。倒。さ。と。轉。く。起。ゆ。ぬ。ざ。り。一。が。鄙。語。み。り。づ。泣。面。と。蜂。ひ。薙。れ。く
尼。ま。と。豊。六。み。突。倒。さ。と。轉。く。起。ゆ。ぬ。ざ。り。一。が。鄙。語。み。り。づ。泣。面。と。蜂。ひ。薙。れ。く

苦痛は底を俯くまふ阿容こと法衣の袖を垂りて。立と天窓を押て。さ
さもこそあらむ。と豊六はほくり近く立たり。斧の柄をひそ推動。菴主を吾
脩と思へて。とく飽やかに罵りしが。実仏といひの。和主がごく病と約る。歎詠成
宗とぞうや。あらが虚言せぬのが死後が地獄へ墮さるゝ方を攘ふと。ひふ
べからば。隠れ撻てあき我アよ。假ふも仏と辯きあひ木像又科アよ。さて考そ
破却せられども。斧の鄉音かのづく。倒さく。足を損ひあひぬ。こゝある木を
るふゆすまく。且く九天より。再て利益する。と。残示一の。よめん
じくさん。さふらひよどや。つふぞや。うどうく。頭を撻ざる。ひふく。と斧。柄と耳の
邊。不衝うらして。数回。躊躇せども。と。一言も応せず。と。勢の。ごくふ尻をさば。
龜の。ごくふ項。縮り。弓体。よる。腰。皆。吐と笑ひ。と。豊六もうち
是。の。男。笑ひ放げ。ごとく奴みども。法師。老婆。歎みせん。大人。氣は。誘ぢ。うえ。
突き。る。斧。を。揚て。肩。みうち。浅江の。う。還。ふ。う。裏入。又。は。散動。を。く。ち。と。戒
寢。彼。敗。て。皆。豊六。が。後。又。距た。巣。を。ま。り。考。よ。み。く。緯。彼。此。又。風聞。を。朝。よ
そ。そ。そ。市。の。果。う。で。不。音。群。集。或。う。け。千。日。菴。の。現。法。ハ。只。屁。一つ。の。喻。ふ。洩。ぎ。
世。の。胡。慮。す。あり。よ。け。と。かり。徑。よ。豊六。ハ。そ。の。日。宿。所。へ。立。ま。り。と。ち。ふ。や。く。女。房
葉。ふ。不。見。峴。崙。仏。辯。の。趁。純。仏。が。済。体。を。お。ち。む。か。く。物。を。掌。て。快。愁。うち。笑。ひ。
人。が。只。寄。然。好。む。の。う。耳。或。も。目。と。卑。と。風。飛。速。ひ。難。飛。捕。る。こと。と。と。賣
と。と。僧。の。意。と。せ。り。こ。ま。く。伴。の。木。仏。が。経。戒。ト。ま。あ。と。い。す。と。信。ぐ。く。あ。り。ひ。と
ど。も。お。ざ。と。定。め。る。の。う。れ。経。ハ。そ。の。る。と。も。絶。く。咎。め。ど。只。青。度。戒。院。こ。る。
と。る。戒。の。う。れ。勸。を。し。ふ。名。せ。尼。法。師。が。そ。の。大。よ。入。の。慈。の。聰。び。と。罵。辱。と。罵。
さ。ふ。と。く。被。れ。を。窺。べ。被。嶺。崙。仏。が。経。戒。通。む。声。と。究。め。と。供。と。定。く。小。僧。見
が。ま。ま。う。ど。の。春。背。門。又。房。と。營。と。蜂。の。子。ゆ。く。修。て。す。さ。ま。か。ケ。そ。く。般。

此の晴と配され。あはれよ違方を虚のこころあ紙窓より親峰の庵あらび走る

こうみきのあるえがく々彼此人が聚合庵とてよ被菓を饅て多モ尼法門面

ほ戒剥剥とく。熟膚も冷ひ仏も喧嘩の側杖かひ足を損ひひふう。がく

くらう人の房代又立びく。尼りうなふ魔羅と輝ちアそ痛しけど。とひあ

スうち笑へば葉みへ真顔や。物体みたひ宣ふま。千劍振神くわ詠宣の習ト

うづみよる佛ゆきうぞやうや。求うそ傷ひあらぎとも。さく過失ハ讐悔

勸解とく罪とふく。口以純化比丘尼への朝裏の眼代うる船堀ゆふ

由縁の人まうふ。おはま。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。

船の荒やあらん。やくべ後をうふ。うそた不軒残ちゆひぬ。とつて豊六、冷

ひひえさん角すりこれよくまれり。眼代船堀國內ゆ一男児をうす二入

あり。小頭太小珍ニ則ル。おまくせふ。あまくせふ。あまくせふ。あまくせふ。

とくふ劇鑑。く。殿の絶を贈り。おのびく。お勸解。う。件の夫ハ財ふ折玉密

夫うれぐ。女房が主め。おまくせふ。おまくせふ。おまくせふ。おまくせふ。

尼ふううとよ某、他郷へ移す。後をとて志たてまうぐ。かくとく口舌むけに。

とやひの隕よひ放り理ゆ勝ども勢利よ負す。上総へ妻を。彼れゆておまうる。

約束うまく。彼乳母が青道で。あるひのう。跡も因うど。食めせば。形のどく算を

帝ひく。居て。食す。船堀ゆ。の賄ひふよ。う。そ。彼夫が一子ハ。と。慈。そ。足。が

靈ひ母を。復りく。あ。よ。け。も。が。船堀ゆ。と。び。く。と。く。切。平。と。名。け。く。譽。は。更。い。少。な。

今。び。れ。彼。の。出。立。す。と。く。う。丁。年。の。比。め。と。齡。五。十。み。及。づ。入。ち。か。う。え。と。

あ。る。う。と。じ。か。と。と。や。眼。代。よ。由。縁。あ。る。尼。う。と。ど。と。へ。よ。う。れ。ぬ。と。ぢ。を。腐。ぬ。

威權ありとも何殊ことよき。何殊越度こゝり。崇そよす。され爲ためす。かのう。う。か。う。
仏を賣うなぐて俗よの流は行る。尼法師にほめりと。道みち理よ。考たとえ。傳つらん。癡ち。
駿し馬ま見み。そ。あ。と。こ。う。と。う。智き。不。能あ。と。理よ。勝こゝ。威い權けん。負ひ。負ひ。と。於。今。宣せん。免めん。
そ。そ。そ。ふ。そ。そ。そ。ひ。孫ご。と。う。せ。も。あ。人ひと。声こゑ。を。あ。し。そ。宣せん。免めん。
そ。そ。そ。の。あ。う。と。う。ざ。が。あ。よ。そ。益ます。導みち。置おき。と。叱け。口くち。を。辨べ。だ。と。う。う。
え。ふ。休やす。ど。そ。の。夜。通宵よ。置おき。も。又。む。そ。う。悔くや。お。着き。野の。へ。遣だす。そ。の。う。さ。へ。よ。
お。ひ。ぞ。と。と。夏。日。と。長。と。せ。と。ど。や。今。朝。出。一。良。入。ひ。よ。と。う。ア。あ。ひ。と。と。
素。敵。の。う。み。牛。の。植。根。と。植。根。と。用。用。御。百。合。の。花。と。日。影。と。頃。下。呻。よ。ア。よ。け。里。
浩。忍。又。一。個。の。民。土。奴。隸。み。唐。糧。擔。せ。と。呼。門。セ。と。ぞ。ま。と。へ。と。そ。と。よ。え。
か。る。声。あ。う。ね。ど。葉。ひ。故。馬。さ。と。え。え。と。荒。然。笑。は。馴。く。と。と。行。里。
あ。が。う。出。迎。什。麼。何。れ。う。あ。キ。ー。う。門。と。う。達。り。と。と。同。と。顛。小。心。せ。と。
の。使。者。み。見。と。憚。る。や。の。や。あ。う。と。密。く。み。と。と。の。小。詫。べ。と。ち。え。と。
さ。と。も。ま。の。豊。六。千。日。菴。う。木。佛。火。毀。く。衆。の。迷。我。覺。せ。と。更。既。と。か。く。と。
あ。く。と。と。眼。代。委。細。と。知。る。と。賞。感。流。う。と。彼。祀。仏。む。と。よ。耶。由。諸。
あ。の。の。あ。と。ど。と。亦。出。う。と。が。や。と。か。と。緯。私。と。お。あ。り。と。か。よ。な。た。這。奴。
幸。な。と。あ。う。と。と。豊。六。生。來。と。荒。さ。と。と。と。之。競。ひ。火。さ。と。正。少。レ。
只。厄。と。見。負。と。や。り。の。且。夫。公。道。め。親。疎。ひ。と。と。その。日。の。賽。神。を。渡。收。
あ。と。み。え。豊。六。又。と。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

文注所坐て遙与ばに汝竊々彼处へ赴民の又母と歎予が意伏らじて件り
杖を豊六よとさせよか。と仰ふよりく。みちのそぞくあつるえあづのとて
還りうづとあさう残焉をく告よと叮寧ニ説示して唐櫃の蓋推開。其
吉錢十貫文堆もく積む程よ葉ひ天小果悉ひく。さうなとどく分受
物。その方ざるをく尼泊一寺かくあらで菴と閑せ。かん咎あらんと安き
心せまし。おひけろを賜り。有るをまく辱をくと應すくと充やかう。そ
ちうこまくわいの辨。皆門の槐の昂昌ゆ病る。良人へ還るの程ゆき。
耳。あきらひ種とり。が頭。掉く否むづうたる。あらじ良人の留
る。三房不號。とせば則豊六よ。とせ。ふこと異。うら日暮かりぬ。
眼代。わらじびく。とあきらとくめ。吾へまう。と立あ。袖をさと。がふ。とく
音。れく。も。林へかく。比豊六へ。脊小餘。祕武負て。かり。あら。荷。じ。と
葉。み。諸。ひ。伐。樹。と。荷。釋。せ。盤。又。汲。く。さ。と。の。房。水。代。跨。く。豊。六。と。汗。推
拭。す。拭。り。と。肩。の。塵。埃。と。う。拂。ひ。草。鞋。と。毛。捨。兩。足。を。洗。く。膚。く。蟻。遣
せ。地。炕。の。底。と。人。胡。坐。と。積。る。殘。を。え。え。と。役。へ。何。ご。と。研。毛。べ。葉。み。へ
うち。笑。く。お。づ。筋。び。き。く。嚮。ふ。眼。代。船。掘。ぬ。と。よ。平。群。萍。平。とい。人。使者
きて。お。し。ぎ。き。の。傳。た。残。棄。り。と。大。き。く。よ。く。よ。く。菴。の。賽。殘。を。
悉。石。よ。と。よ。く。彼。吉。麥。と。荒。さ。と。心。損。が。賞。ひ。ら。へ。と。る。口。状。へ。ゆ。此。ニ。エ。箇。様。ニ。と
お。も。る。い。告。宣。と。豊。六。召。う。ち。菴。め。そ。と。入。つ。や。く。ま。う。浴。が。ヒ。練。初。ア。さ。び。と。
お。も。り。い。告。宣。と。豊。六。召。う。ち。菴。め。そ。と。入。つ。や。く。ま。う。浴。が。ヒ。練。初。ア。さ。び。と。
公。と。ち。と。あ。う。り。と。死。仏。が。非。今。を。外。は。五。供。沐。賞。美。せ。ん。と。う。う。が。又。方。存。一
え。う。り。よ。や。さ。い。け。一。文。注。所。へ。召。よ。せ。て。對。決。し。そ。の。ち。ふ。こ。の。殘。を。う。る。べ。と。す。な。あ。よ。半。日。菴。乃。

まのせん。あらわ。おおせけでまき。せま。ざん。さく。
賽残を没収せし。公のス。ア。残を豊六へある。密の使とひきつて。その義小稱
ひそいと憚あつて。うが。謙倉でとく。ロハ一人。秩父駿忠。うぶ。親疎。う。若成賢不
悪然懲。と。禄り。賜りて。ん。船堀め。名ふ。仰せ。く。食る。と。ア。そ。さしけ。こ。お。じゆ
お。さ。り。ひ。ほ。正。く。駿の残を。あ。う。ん。や。云か。う。う。情由。あ。う。ん。ち。が。
推辞。と。聽。さ。と。と。へ。あ。と。く。つ。る。還。高。ま。ぐ。使と引。と。ち。か。び。し。の。み。そ。の。み。ハ
う。あ。う。あ。う。ふ。ぬ。よ。ね。う。移。が。良人の。か。う。と。あ。う。ま。ぐ。と。田。や。く。と。ご。眼。代
の。往。う。ひ。く。わ。ま。と。う。め。良人の。田。と。房。又。田。を。ひ。今。え。後悔。を。ど。
せ。と。あ。異。う。う。金。と。ひ。う。け。く。も。立。う。金。又。金。を。ひ。今。え。後悔。を。ど。
とい。う。よ。豊。二。沈吟。じ。と。て。の。か。く。の。残。と。そ。う。隨。ふ。れ。變。う。に。け。と。か。り。ど
日。ハ。暮。う。翌。ハ。早。き。丈。道。所。へ。り。と。急。ま。く。返。ま。え。ぎ。一。夜。と。ま。つ。もの。あ。ぐ。う。
物。餓。鬼。の。糧。を。べ。脾。虫。が。欲。固。生。平。の。あ。う。で。熟。睡。く。わ。盜。き。る。バ。難。り。え。
戸。棚。の。指。残。固。う。せ。よ。と。ひ。う。残。を。と。渡。や。夕。餐。ま。ぐ。と。ゆ。う。共。ふ。と。や。夫。婦
よ。夜。と。ち。り。ん。睡。う。ね。が。る。の。せ。ひ。と。阿。三。郎。が。か。く。日。を。倭。く。明。ま。た。高。夏。夜。
る。日。が。短。く。て。の。曉。う。日。睡。一。夫。婦。が。常。ト。ま。朝。寝。く。日。の。升。う。比。う。
先。る。豊。六。ハ。帶。弓。結。び。く。慌。忙。だ。門。の。戸。を。用。使。れ。運。と。捕。め。れ。大。勢。透。す。あ。
せ。と。む。く。と。ま。入。り。推。と。り。曲。ミ。千。日。菴。の。本。を。毀。菴。主。の。尼。を。打。仆。と。縛。の
粉。を。小。賽。残。を。集。去。と。大。盜。入。を。捕。來。つ。と。眼。代。の。令。ゆ。す。り。く。向。う。す。る。索。糞
かれ。と。聞く。声。は。葉。み。へ。散。勇。を。光。く。ま。り。出。づ。駿。兵。ホ。推。禁。し。き。く。よ。と。泣
妻。を。う。と。は。豊。六。ハ。騒。だ。う。氣。き。な。く。些。退。な。く。小。膝。が。衝。な。か。理。不。尽。く。す。
某。ハ。千。日。菴。の。死。仏。を。罵。り。懲。せ。と。と。あ。と。ど。も。諒。を。盜。つ。か。ば。え。る。と。と。の。せ
あ。と。咎。を。揚。て。背。三。四。うち。平。ら。陳。を。ま。ぐ。と。と。や。り。さん。や。論。より。證。据。舍。教
せん。と。り。そ。う。中。み。早。雄。を。あ。西。三。入。彼。と。榜。王。達。を。ど。物。も。に。戸。棚。と。現。と。

をあひとよ怪」と戸を賤放せば。あづきと知る十貫の錢引出。豊六が目先へ
撰地と投ふべ。ことでの汝ハ盜也。とあざ笑へ。葉みひ遙は泣声あつて。
その孫ハ箇様。このものより多く。眼代うるあり。といひて。隙か被ひ。も
源延く異口同音。汝何の功あり。いづこの日。文注所へ。見て。賞錢とする。
ひそかに。あづが。氣も。すこ。せと。罵り。あづ。豊六を。もや。失く。縛り。す。
豊六は。ひだり。寃枉。證据の残地獄の沙汰。かく。あり。縛り。け。と。今
えよ。あづが。再び。争ひ。遂立。と。生く。ゆく。良人の。ま。葉み。方と。役か。小。バ。
縣兵。木。ふ。突く。さく。轉轍。び。携。す。贈。給。ア。返。草。環。す。郷。乃。索
雲蹟。も。跟。と。バ。唯。雄離。モ。朝。き。の。う。の。木。相。を。も。慶。ひ。死。こ。と。哀。

初輯第八 帰郷の野邊送里

復讐記 大刀

船堀圖内。が。夥。兵。少。へ。豊。六。を。誘。捕。て。駆。て。丈。詔。所。へ。牽。り。く。來。る。
諸。圓。の。守。護。の。正。願。を。公。文。ち。く。
詩。所。と。ス。缺。あ。ゆ。の。み。を。す。云。云。の。よ。伏。報。知。く。坪。の。裡。へ。推。き。そ。そ。す。こ。の。と。れ。は。安。房。
圓。朝。夷。郡。の。一。ち。大。階。滿。祿。健。田。の。鄉。も。脚。厨。五。郎。滿。祿。信。俊。う。領。所。も。信。俊。へ。
こ。の。年。來。在。謙。倉。う。り。く。郷。の。老。黨。船。堀。圖。内。一。郡。三。郷。を。別。當。く。財。効。と。收。り。
賞。罰。と。主。威。權。領。主。み。異。ふ。ど。齡。六。十。少。ち。じ。と。つ。ど。も。慈。若。の。公。絶。て。う。け。
き。が。人。伏。る。と。奴。の。ど。賂。ざ。と。ス。款。び。ど。詔。ざ。と。ス。是。狀。用。ひ。ど。利。口。ふ。乗。く。
得。失。と。辨。ト。奸。智。と。逞。く。利。害。と。論。ど。民。の。煩。ひ。少。く。福。ど。そ。の。性。素。ト。リ。利。よ。
さ。う。く。世。才。少。長。う。癡。者。う。と。べ。領。主。ハ。ト。う。ど。口。ぶ。る。か。た。る。の。と。の。き。や。ふ。う。い。
却。境。圖。内。ハ。尼。ガ。子。な。か。切。平。糸。糸。後。つ。く。も。や。そ。の。席。ま。る。や。ぐ。食。り。う。と。も。み。壇。
首。せ。り。そ。の。と。死。圖。内。ハ。業。を。引。よ。せ。喰。う。と。や。信。と。づ。く。や。ま。れ。豊。六。汝。ハ。一。時。故。ゆ。
る。千。日。菴。の。靈。佛。死。うち。碑。死。文。僧。死。死。打。擲。と。百。緒。の。殮。と。盜。は。そ。の。ゆ。ま。

もや隠れき。尼又訴す。せし。則捕殺せし。豫て駄矢射たり。と爲ひまよせ。
かくまで。大膽無敵の所爲せし。速は首伏せよ。首伏せどや。と責問は豐六を
頭に檣。侍従で死りども。そく究々。而辯言え。盜勿論。彼木像破却せし。
ゆうど。その故に如斯く。又彼茂ハ箇様こと。口が麥畑を荒さし。そのてみ
起立より。地仏がる。体平郡薛平が。の。ナス。いひととく。地佛坐。どは奴甚口強。
往還の久の。麥畑を荒さし。愁とせべ。る。よくあるく。訴ざる。地仏を咎め。ち。
甚しき僻處。又彼菴の本。ま。が。経文続とも。よもじとも。汝が管る。とある。ぬ。道
場。闇。老。尼を打付し。靈像が傷ふ。と惡虐む。の守屋とかほ。又。不使ふ。
夥兵。後僕。平郡薛平。といふ。の。あ。正。不ろ。一郡の。眼代。う。ま。ば。召使ふ。
奴婢。とく。そも。あ。と。ど。よ。も。ち。う。里入。ホ。又。面を織られざる。
脱きよ。威を。う。推せども。此下も。か。そ。と。だ。大人既。上不在。と。身の。科。脱。きん。と。
え。ふ。よ。み。
何條。詔。三。戒。や。上。づ。九。平。郡。薛。平。と。り。今。の。事。内。ふ。る。く。は。是。則。拐。見。へ。妻。が。怨。ま。て。
い。バ。骨。相。書。ど。り。く。索。り。が。も。互。と。り。ふ。る。の。山。又。千。日。菴。の。尼。が。る。某。未。や。く
彼。佛。像。云。破。却。せ。ざ。る。と。一。爲。体。ハ。そ。の。日。系。詣。せ。し。の。ど。も。が。正。た。登。人。ふ。る。ハ。彼
此。人。を。召。聚。合。地。仏。と。某。と。對。決。せ。ま。せ。く。と。只。願。れ。た。ハ。二。の。三。の。三。と。の。方。を。栗。む。
船。堀。の。業。を。礪。と。う。も。鳴。じ。り。と。互。不。遇。と。え。汝。が。福。を。や。愛。る。罪。疑。や。れ
ゆ。あ。あ。よ。そ。の。地。を。走。ん。や。う。一。三。百。う。き。バ。つ。よ。実。と。吐。く。と。と。鞭。て。と
敦。塹。ハ。地。佛。が。子。る。ま。け。あ。若。黨。切。平。ま。う。ろ。ぬ。と。御。と。え。汝。が。福。を。や。愛。る。罪。疑。や。れ
推。伏。て。母。の。を。我。復。と。そ。と。六。福。と。答。小。ち。く。と。我。い。と。う。け。声。高。く。ら。じ。が。憐。む
べ。豊。六。ハ。皮。破。と。肉。剥。け。と。脊。ハ。杖。の。ま。た。ま。松。よ。か。あ。と。彷。彿。く。答。一。数。一百。小。

及へ向とたゞ昏絶一び。夥兵ホトヨシ引起しく。面小水没決だうけ。手あら飲せらど
セ一六且く息出されども。るゝ人こも入へるれなかへ。船堀国内へこまどゑく。呵と
うち笑ひ。這奴陽滅を走るどや。うの内又責められど日ハ頑をぬけふと已
る。嚴く獄舎小聲あげし。とりふ又夥兵ホ立て。后息なり。豊六を。そ
とて衣ふと。引起し。獄屋のくえねく去ぬ。さか程又葉みへ歎をひすと枉屈乃
神を恨み。佛又啞ち。つうぐ良人と極ん。とせんども。うのり。親族やあぶる。庄
司腰の二三相譚。つる村長或因。ふく船堀が宿所。小赴き。一通の願状。く。恩免を
乞。小けきじ。も。被切平ホ。こよを。阻て。國トリ肉入へ。す。ど。うのち歎け。眼。瞪じ。
えがく。汝何と。こう。あら。豊六が首伏の科。又。妻や子。も同犯同罪。く。ば。を。よ
赦さ。せ。ど。考。ま。わ。推。あ。と。大膽。再て。あ。く。大膽。イ。先期せよ。と罵る。の
と。あ。緯成。さ。や。あ。う。ざ。と。二。三。ハ。葉。を。代。竊。よ。緯。り。と。復。い。ゆ。を。時。運。武。天。小。ま。

う。うち歎。ひ。と。そ。日。を。送。り。ぬ。か。も。べ。と。ハ。千。早。振。神。る。う。が。知。る。よ。そ。な。の。行
三郎へのゆる日。ハ。大。膽。と。啓。初。ト。上。總。下。總。を。遇。る。も。急。ぬ。旅。や。舊。量。の。親。ざ。六。
つ。そ。う。か。く。二。四。日。の。宿。か。と。浅。草。寺。へ。緒。み。け。と。が。そ。の。夜。ハ。通。夜。ト。そ。ま。つ。の。そ。
母。の。あ。又。の。あ。祈。念。垂。要。時。や。離。ら。を。そ。の。曉。く。よ。也。が。ど。も。目。睡。と。夢。の。ゆ。の。
轍。と。昇。あ。人。よ。あ。ひ。け。王。荒。と。後。何。よ。な。く。猶。う。り。騒。が。く。安。う。る。が。き。佛。前。に
合。掌。す。く。兩。親。安。泰。息。失。延。命。造。惡。消。滅。二。世。安。樂。太。慈。大。悲。と。会。ド。ラ。遂。ふ。下
う。き。ひ。と。ま。

向。又。赴。く。宿。ま。ま。時。ト。リ。附。そ。う。休。ひ。わ。せ。じ。走。ま。で。る。天。義。ま。ま。翅。う。け。と。
小。鹿。の。角。の。東。方。よ。か。や。と。お。う。わ。あ。ど。六。七。日。の。旅。が。ま。あ。ら。く。ま。ま。旅。を。
里。の。複。よ。ひ。と。ある。鳥。の。あ。ぐ。る。声。を。常。と。ゆ。く。斜。又。か。る。ニ。一。日。れ。教。わ。か。き。と。と
ア。ト。も。ほ。き。く。よ。か。る。の。み。う。の。と。が。ロ。一。歩。や。と。や。く。か。り。く。二。ま。と。え。や。と。と
す。も。く。進。む。前。面。よ。り。あ。テ。び。た。る。桶。を。棺。ゆ。く。解。浣。衣。う。つ。被。く。昇。く



あまくまくあゆみやう淺草の観音
堂は通夜す。時の夢よ似しが誰と
あくねど胸辺まで迎づまわ彼方を。
すよ阿三郎。せり。旅となりへ正しく三
ろ。棺を尋ねハ合壁の甲乙され。こそ
いふ。とせひ表すく立在が棺を其外へ
昇とら。裏皆声を低く。噫。阿三郎
敬幸は。衾みむえくさる。あれ
か。故因縁あとた路傍でひだ。
和郎は。きぬのうべとく。そことこうく。葬を
きど。かくとあわせて送葬の儀よ
日へ暮か。説き。とりひく。夕昇起と
棺小役の阿三郎へ。夜あうて。石も
亦夢うとぞ。夢る。が。先よ淳世の
泡沫を常人の命へ朝の露と袖ぬじる
野邊送り。ごく旅衣脱う。か父へ冥土
の首途へ。と還ると達支の因みよ
なく。不ざめても禁あへる。涙と素と
田舎のゆか。あらび田園の疊と墓所よ
そ。壌うを坐没を埋葬して。阿三郎小田向
きせ。或の悼み或の慰め。あく宿院へ入る

けり。阿三郎入へと勞ひたり。其れ立まくことほど従ふ。再び其れは伏流。ア
シイ。アシイ。
僧兵と泣てきる。かるまく行ふ一ノ途より。もと主立てりて。阿三郎が脅威。ア
衰れてたゞひとりまのとども。竊不告へる。あまく且彼歎てと詔引立て。鹿孤
アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。
屋の薦不伴ひ。豊六が更の起。崑崙伝の。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。
告知せ。彼死ぬへ眼代。由縁ありゆのうき。計をもと考り。政ふよ
ト。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。
すく。脱る。途へる。豊六へ毎日の呵責。耳語。阿
シカ。アシカ。アシカ。アシカ。アシカ。
三郎が坐く。毎の違恨の涙禁。身も。心も。鼻も。口も。目も。皮も。毛も。
と
痛き。和郎が母さん。便り。ふちりふ子へと。夫が捕ら。一日。口へ泣
うだ。泣明せ。やうやかにてる。瘡積。又。癰。瘡。夫へ
むる。かのアマ。と。時へ盲絶て。四難が難い。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
アヒえ。と。も亂さざ。と。和郎が立て。阿兵侯。と。親も。子も。アマ。
あ。親類も。精進固ら。あ。りせひ。吾脩ハ。難。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
外ゆ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
アミ。彼腹。うだ。眼代。敵。傷。痛。厄。と。目。復。て。豊六。を。責。殺。と。も。食。や。和郎。が
えり。うだ。母。り。と。も。小。捕。捕。と。ま。科。貧。愈。せ。ん。と。用。意。せ。ん。と。よ。多。苦。修。
密。君。の。ゆ。ま。け。あ。お。親。子。虚。と。あ。わ。を。う。え。い。と。危。と。の。る。我。そ。や。
あ。お。せ。ん。と。も。併。て。あ。う。て。あ。り。本。ら。不。路。費。不。母。り。夫。と。奔。と。と
あ。う。き。百。々。あ。ま。の。粒。根。狀。み。持。ス。包。ま。懷。ま。う。と。う。遠。く。と。
せ。ー。ゲ。阿。三。郎。が。感。謝。ス。堪。ど。が。る。好。意。が。け。の。ま。な。と。ぐ。母。が。長。病。も。よ。貧
き。う。セ。ー。ね。え。う。か。ま。み。の。厄。難。み。こ。の。鄉。ま。と。ど。ど。か。う。う。何。時。ゆ。

返處へ是れ決して受きて。と推辞へ一三頭残うち掉否返さじゆト乳晴笛あり。
和郎とあを拭を認たりや。と向きてそぞおてひつ毛視と毛のぬる比。が失へる所
よく似たり。とつべ一三うち微笑み。さもあるエスル。この毛拭へ和郎が白衣ともう
きわく吾脩も愛うる認りども。あらゆいねる夜桶の口る大石滾で谷へふす。
その跡はれ落とあり。ちひみ和郎がみ件骨送へ身長高し。らるあらべ死
正うが。件の石をぬる舉へ。神所為る。とがこぐるよ田園の愁を掃ふあらぐ。
正しく和郎が孝心を愛させま鬼神が。とどりて負財を償せ又み哉と其妙
を。送そそと吾脩は嘆じぬ。神謀はあらん。さうんとあひつけど入る言。
うの毛拭を差しむれ。彼石既にうるまきが是より年々その利あらず不貸
ふ。あ物を返さざと。毫毛たるも損どふりど推辞どくと報喻。その言
を當るかあらざれど。陰徳寔は陽報。ア三郎へ今ま下ふ。可うせうと。或いを
起の准候せよ。えも今宵へをさと。と努力入る志と。と且語ばうる果て。
立正れゆ。畔と疊送よをまく。又えま。麥の青櫻又背景。あむや暮る時ふ古
事記。ア三郎へ母の哀傷する。と推するも。さや告入。のうりやいへ。慰へと
おもん。想。さやむや。おもん。ひとも。おもん。
身思ふ曾もへ有也。无也の闇と人目を憚。もと。ちや軒ちく處よけまへ背門の里
下。因里とまく入り。只今のりひといふ声發て母葉する障子引開き。とア三
郎歎詠。うび。御。折。うし。あらせ。棺と送り。ひる。四鄰の眾小
ちや。想。おもん。ハヌ。答。の終焉朽。を。助。せ。門。下。引。開。て。まく。
とづく。正しく哀傷。よと。乱。と。胸。氣。き。う。と。お。お。お。さ。う。ア三郎、
且。羞。て。恭。と。お。お。旅宿。答。の枉死縛の始末。の禮。おもん。

三門爺みつもんじやが告げへき。う。いはる。ことを。まよ。遠揚とんようハ云いまよ。尽つく。悲歎ひさん陽ようを歎のぞ。今又いまか。せんとぐ。う。此度しどうの大厄難だいかに。とまでや。解わかは。まわら。そ。う。死しぬ。悲場ひじょう。あらわす。あらわす。出でりて母おやぢ。共吾脩ごうしゆを搾捕さいほんと。と。さく。還かへる。残候ざんこう。う。の。子こを。死しむと。縄なわを。あは。被あはる。が。死しむ。親子おやぢ他鄉ほかきょうへ。えむ。と。そ。路費ろふを。言いふ。ひ。ニ。ヨ。が。死しむと。それか。め。あ。且そ。二親ふたおやぢの。が。死しむ。冤枉えんじやう。係つきり。あ。ひ。ご。亡む。痕あざ。でも。う。う。の。入いの。怨おみ。三十六計さんじゅうじ。外ほかの。本もとより。と。う。の。曉あく。母おやぢを。見みゆ。と。そ。電でんを。廻まわす。外ほかの。術じゆを。と。う。准じゆは。死しむ。と。そ。が。立たて。懷いだ。一三が贈さしおす。銀紙ぎんしと。う。と。死しむ。菜な、け頤ひ、嘆賞たんしよう。現あらわる。彼かれ入いる。親子おやぢが。死しむ。守まつす。卒そつする。牧産ぼくさんの。次つづ大きくな。不ふ利益り。五口脩ごくしゆを。入いす。件くだんの。死しむ。放ほうす。死しむ。竊くわんめ。死しむ。を。死しむ。又。次つづの。没ぼつ死しむ。不ふ被あはす。物もの。防ぼうま。か。く。活は却か。些せ。乃の。路じゆを。廻まわす。死しむ。五口脩ごくしゆへ。因いんき。死しむ。屍しかばねを。市いち小こを。棄きらます。か。死しむ。方ほうの。善ぜんス。の。う。何なん。死しむ。そ。内うち。死しむ。奈なま。死しむ。へ。り。と。立たま。く。死しむ。戒かい。推すい禁きん。緒はじの。本もと未み知し。召めし。が。哀あれ。事こと。死しむ。心こころ亂まげす。あ。う。死しむ。考かう。諧語けいご。と。名石なごい。と。う。ま。改かめ。と。媼めいが。や。ア。す。う。さ。う。死しむ。と。免めんて。死しむ。召めし。せ。素す。と。死しむ。角つの。二親ふたおやぢハ。豐六とよろく。コトこと。ハ。か。年とし。僅すこ。三みの。比ひ。この。大お辭じ。へ。俱とも。す。り。産育さんいくの。子こ。と。う。と。養いく。ハ。油ゆ。走は。情じやう。ある。ふ。あ。く。実じつの。清和源氏きよかわげんじの。嫡流しやりゅう。旭あさひ將軍しょうぐん伊豫いよ守しゆ。義仲ぎちゆう朝臣ちやうじんの。死し。御ご。中なかを。の。き。原はら兼かね遠とおの。息むす女めのなる。範はん給けい。拂ほ。貴き少すこす。も。は。死しむ。志し。高たか。又また。文安ぶんあん伊豫いよ守しゆ。治じ。美み二にの。年とし。木曾きそ路じゆを。出だす。北四きたよん。兵ひつを。起おこす。お。ひ。一いつ。す。攻こう。主ぬしと。取と。身み。乗の。乗の。乗の。乗の。帝都だいと守しゆ護ご。を。か。軍功ぐんこう裏うらあり。

あらぶ朝恩特々浅うべ是より早晚山こう假アまく。もん行状トテ一うまき遙本朝
敵とテヨマリバ東軍俄頃み推よせ在る宇治川田の隊城うちすまく防戦め
めとなく主役七騎又較よきを一鞘绘侍奔ゆそがうちとて越後と投て築人
と。湖水の畔へうちゆゑ。かん大ねへよび矢内兜と射まぐ。寢期へありと
あがの。のそをきえ。ばくけや。と。むつをう。粟津野の残の雪と消ゆる寒ヌ元宵のそゝもの年正月廿日付工ふなん。あの比
え方ハ母君の胎内みあしくた素より。お勇ア丈夫少。とちごと優孟。鞘绘の
君。こひ日真先又さみ内田三郎季吉みど敵将數部ひとまえだ遂に勢ひ
究アとく和田小太郎義盛や。小生拘らき。ちひけ。さて簫倉へ率テ至り入へ
失くるべた。り。望え。一宿は。義盛ぬ。と惜ミ。簫倉殿小乞やまし。妻と。迎
と。ア。の。情縁恩義。み絆さ。そ。その意。又隨ひ。り。ひ。と。お臥房。と。ゆふ
を。の。近。義盛ぬ。も彼君の心操。又感嘆。そ。その名。も。す。妹脊川委。月
日。を。き。こ。そ。く。ち。力。従。生。老。死。と。る。且。く。指。考。せ。ば。そ。の。年。の。冬。と。入。あ。告。て
あ。さ。ま。う。阿。三。丸。と。名。け。孕。ミ。血。を。正。け。し。子。と。う。と。寵。愛。を。の。と。偏。ミ。母。公。の。勇。力。と。義。ゆ
嗣。せ。え。る。う。り。た。こ。の。比。ア。と。う。と。こ。の。里。あ。て。そ。の。名。を。小。蔓。と。ゆ。び。そ。め。女。の。子。を
産。く。な。う。じ。が。世。後。る。楫。の。か。こ。う。後。バ。夫。と。寵。る。後。合。く。件。の。小。蔓。又。伏。襤。襤。の
中。ふ。人。よ。取。う。と。う。と。乳。房。を。售。そ。簫。倉。ふ。旅。宿。を。と。う。わ。か。る。ま。なく。
ち。ん。角。が。乳。母。よ。ま。う。そ。り。か。く。か。ん。お。ハ。襤。襤。よ。と。脾。疳。と。う。り。病。多く。蛭
児。の。神。み。あ。う。孫。ど。三。才。み。ち。う。ま。で。足。く。と。言。と。き。と。う。と。直。嘔。の。夜。あ。日。を
ふ。う。と。む。う。う。と。り。ハ。義。盛。ぬ。一。鬱。恤。ち。か。く。母。は。前。り。ろ。共。眼。と。の。ア。乘。地。和
田。の。畠。を。あ。女。僧。院。へ。と。と。遣。一。う。法。の。首。途。の。餞。別。よ。簫。倉。殿。下。と。恩。賜。乃。成
刀。三。田。滿。仲。の。達。物。る。俱。利。迎。羅。丸。を。取。じ。あ。ひ。宣。ス。ト。火。切。され。ど。る。兎
を。き。ま。う。母。君。ハ。愧。じ。と。名。將。勇。婦。の。子。こ。う。の。戒。法。師。よ。せ。ん。う。と。朽。を。と。世。あ。た。ん

あらぬのうぶ。母のうなみと公へても被戒刀を抜とりて孺子と刺しとてゆつて。
又ふのがすを推禁りく泣々練さればもろかんひ放ちひそむ。あらがふ
子と汝よそせん。舊里へねて還りく夫婦の中の子ともアよ。ソシ人とあらがふ
教めべく。素姓を告よ。又教めべたるのうぶ。實の親とも養へ親とも抱く
あらどべく。だけやうとしてコブヨリ。陰に憑く。縷くんざとあらせゆあら
俱利迦羅の戒刀をゆく。ちん腹へぐきとつ建立ゆひけ。當下送玄精細。
この戒刀へ養父の像見。母が鮮血を滲くに。又。緒ハ實の又君木曾殿のゆえ
を。旗うりと。ゆくえあじくと。まゆ。一毫もゆくとゆ送さんとく。血をりく。緒よ書
くら。この二種ハ汝の領人阿三たが入とあり。勇士。うべをのうぶ。ひつる。戒
使く取らせよ。きく。又とく。廉倉殿と父の仇ともかく。うとく。戒を復して恩義
ある。美盛ゆ一戒連係せば忠孝の道缺ぬべ。只ひくも。被人を實の親と
孺子の鮮血を吸ひく。かくじよく。うすりて。淺あく。と衰した比ん。物くね
と。あらがふ。ゆくへぐる。死送ひ。とゆ。か。こけ。も。志。激しく。記念の二種膚ふ
附路費ふせゆく。財布残腰も結びそそく。孺子を皆。眞。暗黒。まく去
らんと。も。折る。縷も。竊。や。ひ。ん。あらの。殿。後方。ある。縷門。姫。と。推。ひ。先
乳母と。も。非。を。そ。り。ぬ。可。惜。勇。婦。か。自。殺。させ。え。こ。の。子。と。ま。く。二。母。と。親
子の。義。を。絶。る。美。盛。が。瑕。瑠。入。す。と。ど。す。と。と。せ。の。戒。や。の。義。と。く。緒。の。義。と。く。
信く。走。と。去。その。曉。く。る。底。あ。る。金。澤。又。勢。を。も。う。津。波。水。と。折。清。尚。の。老
覚。要。越。獸。六。郎。とい。の。大。狗。すく。數。追。兵。戒。萬。を。も。う。引。復。さ。く。し。ふ。

怪一也。ほへての時又昏絕。とつて身を落孺子の様。又ちうづなす。近づくもの。或
搔。搔き。壁はともかく。うち齒一物のいひ。ざゑあらうじ。罵り。罵り。あらうん。と。怪
力。戰。裸。凶。獸。六郎。立足。ゆる。後頭。アギ。て逃去。かく。金澤。あつ。
の。よ。野。嶋。が。崎。う。便。船。と。舊里。へ。傳。と。あらう。せ。緯。の。熟良。人。は。生。く。そ。と。ま。三。守。
色。空。體。を。と。か。仰。仰。の。う。ど。よ。あ。う。と。お。ま。ひ。と。懷。小。育。き。と。コ。そ。く。も。え。入。
豊。六。も。恩。參。月。二。年。み。り。や。ま。き。の。と。親。ア。ヒ。モ。う。た。土。百。姓。の。や。く。も。く。廢。訓。
學。の。道。も。ち。下。後。バ。ト。そ。あ。と。藝。ア。シ。ク。や。う。せ。け。る。餘。カ。ハ。ほ。す。や。満。祿。の。山。寺。へ。
登。一。あ。と。せ。と。書。日。を。入。る。も。く。お。た。り。下。山。の。ち。ハ。田。ふ。畠。の。穂。ハ。と。か。く。物。の。
本。筆。と。あ。う。と。あ。う。榜。の。刺。衣。又。肌。膚。を。あ。く。ア。く。刃。を。牛。馬。又。の。き。と。あ。う。と。孝。
行。や。て。か。く。び。旅。と。哀。と。情。由。端。と。告。き。ひ。と。打。ア。を。あ。う。と。倭。ひ。も。
さ。く。豊。六。ハ。枉。屈。か。命。た。る。か。く。失。と。餘。の。殃。と。く。ふ。係。と。そ。一。旦。玉。の。縁。絶。果。た。
う。だ。と。互。て。の。よ。父。誰。う。又。如。此。そ。ち。ん。考。み。告。廻。う。ん。ま。の。く。か。考。を。通。係。せ。れ。く。
駕。
慮。が。慮。ア。リ。で。本。う。が。十四。五。年。の。苦。愁。他。も。く。死。と。母。御。前。鞠。捨。の。君。へ。ま。し。訖。
と。え。
つ。を。言。の。業。う。と。只。一。ト。を。も。う。ふ。お。じ。決。め。と。さ。と。良。人。は。復。見。と。あ。わ。う。た。愁。あ。
あ。衰。
形。う。た。世。の。哀。一。き。と。懸。念。せ。べ。コ。ト。ア。モ。素。ト。ア。村。菟。か。生。や。天。月。へ。人。の。う。帰。乃。
を。ち。道。ハ。お。と。ぎ。な。と。三。年。が。同。給。事。して。と。せ。よ。か。せ。よ。云。と。朝。み。夕。う。か。母。御。前。が。
教。導。を。あ。り。か。せ。と。も。れ。恩。惠。み。習。沿。ひ。松。ハ。標。ふ。牛。ハ。直。浪。速。の。浦。の。よ。あ。一。戒。
些。を。辨。なる。ほ。か。う。禱。と。れ。ば。今。宵。と。よ。く。ち。ん。考。と。こ。と。か。と。親。ふ。お。を。
子。で。ま。と。と。ほ。お。と。う。が。罪。モ。崇。と。ば。し。像。見。の。二。種。勢。と。夜。あ。う。お。出。て。彼。が。
と。と。廉。倉。へ。起。た。と。養。ひ。君。ふ。名。告。と。く。身。を。立。ち。吳。竹。の。下。あ。が。と。た。ハ。この。う。
の。ミ。ヨ。ク。ア。モ。武士。の。妻。う。と。大。潔。く。自。害。と。良。人。又。追。つ。死。ゆ。り。ん。又。死。と。と。益。う。
生。ア。ス。益。う。死。恐。驚。と。剪。捨。と。身。へ。ゆ。く。じ。と。族。ト。ア。客。ふ。命。の。限。廻。四。と。

を身が後跡をえんと外うづくてもせん。ひきで、今宵海陸の神祭分ち候ま
てん言ふたるも婉まをひし燈へことぞ。と俱利迦羅の懷刀ひそかに引抜く。
髻拂と前拂被旗絹みどりとそぞく恭へ阿三郎がほどう邊へ國をさる。と
笄へ雄しげふとえて袖の漏る雨の齊間へ絶てゐるだけ。さのとをさむ可
三郎も詠歌低き狀又く。つゝとやのくどり。且つ大息づた。儀容と形態改めく。
旗絹刃と西のあみ二さび三さびうち戴き城うろゆ古人の金言十室の邑ゆ
忠信あると乳母夫婦がるかりうる。礼ゆも既に八母の名あら。養ゆるみ母え
何ぞ親子の名を絶べ。さくらゆ實の母乃心操アソ有ぢけき。但その自殺を
某が故に乍ら死の罪車。養親の恩矢も高う。母の遠命耳か笛玉陽の深て
悉かんよ。とぞ私の怨懣舒世を驕り。廉倉歎。我慢の弓をやへ弯ん
あうや。身の厄難を脱ん。今阿宿ミと縁倉へあはへんせり。名勝の
胤良家の子と考す。總てかうほくどモハ九歳の比より。只管が雲海はて。
滝緑寺かと。時。健田秀作といふ師。粗野の道然習ひ。健田の翁。れど
相々。勇力ありと定め。ゆく母の病氣死。とくらぬよ運り。後。山崩坂
を牛糞解。牛車の滾落。やうじ。推登。みづ。膂力あると歎。見え
けよ。入。腰。さう。思入。三。楓口。大石を。捨。腰。所。又
学問の道。彊。け。胸中五車。ふ富。儒仏の教。和漢の史。古今の治
乱君臣の得失。粗縮。も。も。親み。ゆく。ゆく。隠セ。師の
誠。ゆく。ゆく。身の卑。且愧。他。姫媚。あそ。ゆく。時。うふ。聞。くる。
家の艱。養。え。重。ひ。物。置。と。う。た。及。び。右。ら。も。素。姓。と。う。
志。改。更。く。仇。を。殺。難。と。避。身。立。名。也。揚。彼。世。今。生。五。ち。ら。の。親。安。か。
ま。き。よ。ケ。ド。う。そ。え。恥。を。雪。め。考。類。よ。あ。げ。ば。こ。と。入。の。子。と。り。よ。う。き。り。や。實。母。の。賜。と。ゆ。若。せ。

とす直ぐ。弓下より刀尖あく。矢歴ト。うちへ。瞬めせば。熟視する天暗哉物。
槍刃ふ送る鮮血。母の像。そと。いひあく。ご驗あがて。見難小袖めて腰小帯ス。
眉を推して。思ひ。親とせよ。美み仗。友頃。待べ。と。我輩。君。四年
みま兄弟。そ勉め。うと。血を塗く。字せあひ。教訓へ。日今。母小面り也。り
異うき。一言ゆて。手を尽す。半句。とも。峴山の先玉。もじ。と。晝。
なん母の志。斜。など。愚意。と。符合せ。よ。さと。が。義。小仗恩。答へ。今宵。施。龍堀
等。と。鑿。ゆく。咎。復。ひ。母。を。脅肩。ま。他鄉。へ。走り。時を。まぐん。と。簇。眉。を。棒。又
ども立あ。言。繪。面。身。の運動。自然。と。徳。勇士の本體。現。兵仲の。意。道。朝。
繪。子。と。目。光。と。葉。ひ。慌。た。か。そ。袂。小。携。引。と。ぎ。と。小。物。接。ハ。盜。む。人。首。も
ね。算。も。竊。し。と。世。活。み。ハ。り。が。今。ぞ。も。底。ハ。肩。み。よ。う。さ。き。け。り。能。あ。る。重。く。血。と。隠。し。
づ。の。経。小。習。得。し。大。学。云。藝。ち。う。う。さ。入。世。や。も。入。ゆ。よ。う。か。恩。ま。の。ある。よ。怨。
ある。往。城。被。累。ま。ん。と。思。豆。は。タ。房。ゆ。く。ま。く。有。ゆ。く。よ。く。天。公。一。そ。互。弑。口。ろ。と
ま。う。ひ。よ。あ。く。ね。ど。船。堀。ハ。眼。代。ん。小。祿。う。と。も。家。属。ま。る。ま。敷。う。皆。所。行。を。く。
せん。ま。ん。み。り。千。金。の。身。を。喪。ひ。あ。り。これ。ね。考。と。も。義。と。き。ひ。り。き。て。強。そ。彼。如。へ。叛。た。う。り。く。と
あ。眼。前。刃。め。伏。く。後。この。歎。た。を。せ。す。と。阿。三。郎。が。腰。刀。あ。と。腰。拂。う。が。こ。う。短。慮。ん
ま。う。ひ。う。と。り。と。ア。正。叛。う。ち。掉。く。こ。う。が。絆。と。う。の。腹。と。死。れ。か。ん。刃。め。逃。退。不。接。め。な。う。ん。
白。子。の。浦。す。と。使。船。く。相。模。海。へ。こ。う。と。も。と。ま。う。山。越。く。と。上。緑。乃。切。く。
却。を。ゆ。く。食。て。げ。く。旅。ま。ふ。略。費。あ。ま。く。へ。新。護。よ。と。う。う。難。長。小。代。く。
調。う。こ。の。根。と。こ。う。へ。ぐ。あ。せ。ざ。う。を。ゆ。り。と。去。み。し。宿。と。遠。と。を。推。辭。よ。無。
さ。も。且。く。愛。く。潜。守。小。袱。包。ふ。巻。翁。く。そ。う。終。母。の。脇。み。負。せ。物。と。ま。送。く。の。お。
さ。も。耶。わ。の。う。志。が。諦。ん。と。され。ば。母。の。意。よ。稱。移。が。せ。ん。と。び。ゆ。せ。や。く。と。上。緑。の。場。

まご送りをうせん。とてくども。そひて火急の旅も見ゆ。待されぬへりん。さまひだ。
さひむどんの珍ひあり。今東西又立つる。何れの尽れゆせうと。南朝の尼と
名告がれ。再会の便若とうる。なん。加以十餘年。養育の恩。産育の恩。ゆうの
母をあはれ。後日ふ某が人きみたまふろく。時反哺を受てあらが。今
の別生の石おさる。残環あふ。日めちひうそく。余ふ懷りゆが。と他りういふ物体
うる。假ゆる古主の名を祀と。と憲ある。うそく。ともかく。かく。かく。かく。かく。
そひよどん推辞。にそひともかく。を。候。うえ。夜の深。宿よ出。す。往。ゆ。馴。る
宿。あはれ。送を。あはれ。もあはれ。と名残へ。終。と。うそく。宿。ど。うそく。小暮スが。タ。
親を。あはれ。と。うそく。あはれ。上總の。うそく。す。來。し。人。の。難。ひ。と。せ。候。うそく。その名を
今。か。忘。れ。あせ。じ。東金の。構。六。といふ。商旅と。ゆ。つ。あ。う。今。へ。上總。よ。と。う。ど。と。そ。社
へ。さ。き。方定。く。み。あ。き。ね。ば。坊。や。よ。と。や。く。ね。ど。護身囊。小納。よ。る。脇帶。ゆ。へ。生。ほ。年。月
元。曆。元。年。七。月。十。日。小。暮。裏。が。産。毛。脇。帶。と。答。が。ゆ。延。ぐ。記。と。あ。だ。ん。も。ん。青。が。う。まれ
まひ。ゆ。そ。の。月。而。く。日。か。う。ぐ。り。豫。君。ゆ。あ。き。京。ゆ。あ。き。と。か。ま。生。ま。ん。く。ゆ。く。り
さ。あ。人。ゆ。あ。ひ。る。と。ひ。ひ。け。て。嘆。息。し。噫。じ。ま。百。諱。言。愚。癡。う。り。十六。七。年。そ。く。そ。ぞ
従。方。ゆ。あ。き。る。女。見。ぐ。の。才。の。う。れ。時。ハ。下。づ。や。ふ。お。ひ。出。つ。ひ。出。く。お。方。が。足。筋。と。く
出。や。う。ぎ。せ。あ。そ。一。里。が。宿。る。ま。た。送。じ。て。あ。わ。き。と。ひ。そ。じ。ま。門。三。郎。へ。齋。じ。る。の。ミ
正。を。ほ。う。う。と。そ。ひ。と。ひ。う。ひ。く。ゆ。く。う。れ。正。そ。う。が。送。り。と。演。ゆ。く。ゆ。く。う。れ。
否。そ。見。て。塗。あ。た。う。な。う。べ。曉。さ。う。と。ひ。出。船。る。と。送。ゆ。ひ。と。う。そ。み。築。あ。か。事。を
窶。ゆ。け。ん。じ。入。音。ち。一。門。の。戸。と。引。用。く。裡。面。入。る。う。の。庄。司。職。の。一。三。へ。親。が。せ。せ
く。ま。え。え。く。遠。く。出。迎。へ。寔。ふ。お。ん。房。が。演。ゆ。く。教。訓。ゆ。ち。す。う。つ。な。く。義。支。度。は。老。房
ま。ま。る。回。り。か。欽。び。兵。迷。く。別。と。告。ま。ふ。ひ。と。あ。く。うち。歎。た。く。い。ひ。と。う。氣。一。云。發。あ。ふ。と。

朝夷初樂卷四

金子世平

阿三郎

音優姫小娘太



明夷刀篇卷四

七

阿三郎
夜誓を
鑿る

音優姫小娘太

虎姫園内



この期み及びて。口あへを益。母のむき。吾脩が棄肉。便宣の里。すく。送す者。現親子
ひう共。よ。危て。あえ。か。危。阿三郎へ。今宵の。身。私。乗。後。悔。と。そ。
急げ。と。葉。母。扶。被。つ。門。ロ。ア。三。郎。の。裙。を。折。そ。う。共。立。られ。ば。さ。と。と。も。う。至
告。別。声。も。疊。ま。る。や。宵。闇。ふ。携。引。立。く。走。ま。去。入。の。情。と。母。の。恩。海。と。山。う。る。歎。の。そ。ア
ア。三。郎。へ。沙。を。も。や。と。と。要。時。其。方。を。目。送。り。け。ま。さ。と。ア。と。の。葉。母。を。へ。四。の。靈。山。灵
地。を。残。さ。く。徧。歷。一。果。の。信。濃。よ。ど。ま。よ。ま。よ。九。十。餘。歳。の。上。壽。を。さ。と。ア。和。田。合。戰。の
後。ま。でも。鞆。絵。の。尼。と。く。彼。四。ふ。ひ。ひ。と。ま。て。あ。ま。と。ア。三。郎。へ。母。の。う。ア。う。マ
シ。と。ひ。や。と。養。え。の。仇。ひ。う。尼。眼。代。ホ。を。想。ひ。ざ。さ。立。去。じ。と。豫。ア。ヤ。ハ。靜。庵。が
宿。所。へ。も。と。り。潜。び。入。り。駿。の。仇。を。殺。殲。せ。そ。の。圖。へ。さ。と。ふ。出。じ。と。り。だ。う。の。物。語。長
や。う。う。き。べ。く。や。を。る。條。を。更。く。第。五。の。卷。の。も。ど。ら。め。と。ん。さ。と。や。端。を。む。く。の。そ。

